

てんてい新聞

17.3 No.238
発行所 赤岡田 伏見
0883-88-5292

啓蟄がすぎると、虫たちも動きはじめる。春がすぐそこだと、ウキウキとほじめるのが、足ふみが続く。そのどよ、葉の茂る、スイセン、タンポポも咲きはじめるし、ハゲと見えそい我が家の庭のバケツの水の中にはカエルもいる様で、夜に音がする。三十日には、ツクシも見えこ、モンシロウも、葉をそうにヒラヒラ飛んぐるのを見えらうれいのに... 三十日には、朝から雨。



春がまだの春

ナニ時頃より震えまじりの雨。その内、夕立の様は降り方で、早足で雪が地面をにぎはじめる。真冬ではないので、下からとけはじめるが、標高からセロメイトルでは、道路も白くはじめる。夕立までには、五ヶ所まではつもつて様だ。安心して、タイヤ交換していら、少し坂道だと走れない様な状況になってしまった。これぞ、三月の雪が4度目です。ただ、そのどよ、春がすぐから、水分を十分含んだ雪は、やめば早く消える。待つて春だけに、行つて来たりり天候にはふりまわされる。さむい郵便物も迷っていることだろう。四月はスタートの月。入学式には、祖谷にもあつちつちで梅が咲きはじめるでしょう。ようやくの春本番！、今年も、北国の春の様だ、いろんな草花がイッキに花開くかも知れませんよ。待つて遠くから、春こびが大きな様な気がしてくる。幸福度は、世界一五ヶ所国中の五ヶ所をうかが、せめて、春を撮るためにいもんです。



権力のなかにいる過激派ほど
争のつけまうのなれりものはない~



私は
其謀罪
反対
DESU